

## 2019 年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3 年

留学先：フィリピン フィリピン大学

留学期間：2019 年 8 月～2019 年 12 月

私が英語圏に留学を決めた理由は大きく 2 つあります。1 つ目は、今まで長い期間英語を勉強してきたのにも関わらず、いざコミュニケーションを図ろうとするとうまく表現できないことが多くそれが悔しいと思っていました。そのため克服するための良い機会として留学を決めました。2 つ目は、将来就きたい職業は必ず英語を要すること。さらに外国の人と関わる職業なので、日本以外の文化や慣習を知る必要があるからです。

留学開始時は、周りの留学生在が自分よりうまく話せていると「ああ・・・自分うまく話せない悲しい」と思うことがよくありました。さらに、留學生のための英語の授業は無いので、いきなり正規の学生と授業を受けます。初めは、先生が何を話しているのか半分解るか解らないくらいでした。さらに先生、さらに生徒もタガログ語と英語を混ぜて話すので、正直全く解らない時もあります。しかしこのままでは今まで通り成長できないままになってしまいます。そのため、身近なルームメイトと日常会話の練習をしたり、授業では友達を積極的に作り、よく聞き取れなかったところや、タガログ語でさっぱり解らないところは教えてもらいました。すると、段々と聞き取れるようになってきました。タガログ語も慣れてくると、「こんな話しをしているかな？」くらいは解るようになります。言語面ではこのように自分なりに工夫していました。

生活面では文化、慣習の違いから、「どうして！日本ではこんなことありえない！」ということばかりでした。例えば、約束の時間には、ほとんど必ず 30 分以上は遅刻すること。これは本当に驚きました。日本人は時間に厳しいというのはよく耳にしますが、時には先生も何事もなかったかのように遅れます。そして、私は良く面倒を見てくれていた先生に時間の感覚について聞きました。すると、「フィリピンでは公共交通が整っていないため、時間を守ることが難しい。だから約束の時間の 30 分～1 時間は遅れて平気」とのことでした。確かに渋滞が無ければ 30 分で着くところに、3～4 時間かかることが多いです。そう考えると、「そうなるか・・・」とも思いました。しかし日本でもし連絡もなく遅刻をしたら取り返しのつかないことになりかねません。時間以外にも驚くことや理解に苦しむことは沢山ありました。しかし、UP の生徒、フィリピンの人たちはおおらかなので、身近な友達や先生と文化、慣習の違いを気兼ねなく話すことができ、ストレスなくお互いを知り合うことができました。これは海外に住むことで出来る楽しい面白い経験だと思います。

このように日本を出て違う世界に飛び込むことで、困難に沢山遭遇します。私は、自分のことを環境適応能力が高い方だと思っていましたが、まだまだだと気付くことができました。しかしこの世界には自分と同じ人間はいません。そのため多くの人と知り合い、考えを共有することでより広い視野を持つことができると思います。英語力の面でもそうですが、自分のことを改めてよく知ることが留学をすることでできました。迷っている人はぜひ留学してみてほしいです！何でも聞いてください！